

第5回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年1月5日(日)13時~17時

◇会場 森と水の源流館

◇参加者 川崎(川上小)、新宮(平城小)、島(郡山西小)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、尾上・木村・上西・古山(森と水の源流館)、奥田(川上村地域起こし協力隊)
北村・中澤(奈良教育大学) 計11名

◇内容

1. ESDの概念整理

ESDは人々の持続可能性に関する価値観と行動の変容を促す教育である。実践の前後で学習者の変容を評価するためには、何を対象とすればよいのか。

①行動の変容について

学んだことをどのように生かそうとしているのかを評価する。

- ・活動への参加・参画
- ・ライフスタイルの変容

②価値観の変容について

価値観の変容を評価するには、長期的な評価が必要となる。その前にまず持続可能な社会づくりに関するソマティック・マーカーを評価する(気づく力)。

ソマティック・マーカーには知識の網の目を細かくできていることが求められる。ここでいう知識は、個別の知識量ではなく、つながりあった知識(概念的知識)である。概念的知識については、学習者の記述したものから評価することが可能である。(因果関係等、説明できているか)

- ・実践前と後で、概念的知識を問うアンケートを実施して、変容を評価する。

③見方・考え方と資質能力の変容について

見方・考え方及び資質能力の育ちについては、学習過程での学習者の記述や発言より評価できる。

- ・クリティカル・シンキング 課題づくりにおける記述や発言(6つの視点から批判的に捉える)
- ・システムズ・シンキング 調査結果を総合的にまとめる(6つの視点を用いて)
- ・長期的思考力・システムズ・シンキング 話し合いでの発言(6つの視点に依拠して)
- ・コミュニケーション力 調査活動時、話し合いでの発言
- ・協働的問題解決力 行動化におけるリーダーシップや協調性を活動より評価できる

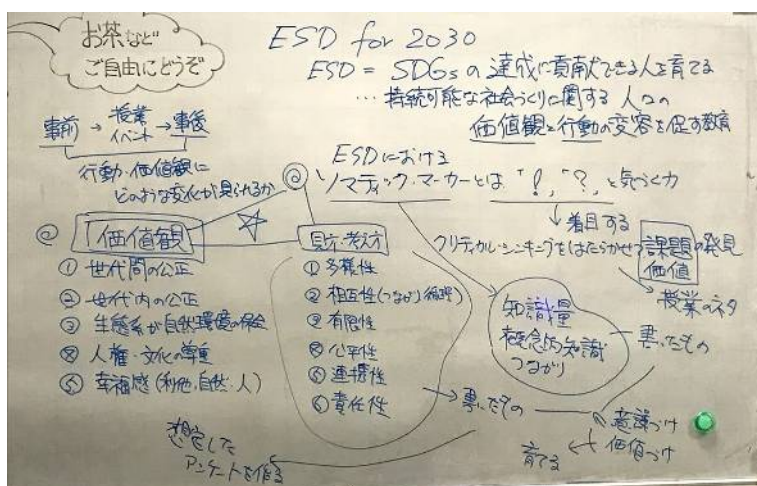
④評価方法

ESDでは主体性を育てることが重要であることから、自己評価できる力を育てることが重要である。一方、行動や発言を捉え、指導者がSDGsやESDの価値観・視点を用いて、意義づけを行うことも重要である(理解を深め、意欲を高める)。

2. 実践報告

(1)「こん虫のかんさつ」大和郡山市立郡山西小学校 島 俊彦先生

- ①どのようにして、生き物への愛着を育てるか。



自然環境や生態系の保全の重要性を学ぶ以前に、半数以上の児童が昆虫を苦手としていた。

母親の昆虫嫌いが影響しているのではないか。

今の児童は昆虫との距離がある。知らないから苦手という面もあるだろう。どうやって縮めるか。

木村さんのへび嫌いの克服より：仲間からの影響で、興味を持たせるのが効果があるのでは

児童が生き物嫌いでなくなれば、保護者へも影響していくのではないだろうか。

デフォルトの変更

身近に昆虫がいるというのが当たり前の状況にしていく。昆虫に関心のある児童が多数派であるという状況を作っていくことで、仲間から影響を受け、児童が変わっていく。



(2) 「自分たちの川上村は自分たちで守る」川上村の防災教育～60年前の伊勢湾台風の記憶から～
川上村立川上小学校 川崎 貴寛先生



②地域の方とのつながりを深める意義

地域との関わり、地域への貢献をテーマとした授業づくりを行う。

優秀なテスト結果による応答でも、自尊感情が高まり学習意欲は向上するが、それはあくまでも、自分の能力を高めるといふ教育の個人的側面にすぎない。E S Dにおいては、それが持続可能な社会づくりに参加・参画しようといふ教育の社会的側面に影響する。地域への貢献に対する地域人材からの応答が、児童の自己有用感、自尊感情を高め

るとともに、学習活動やよりよい社会づくりへの意欲を向上させる。

マズローの欲求の5段階説においても、承認の欲求が満たされると、自己実現の欲求（人のために何かしたい）へと進むと言われている。

学校の教育活動に地域が協力するという段階から、地域と学校がつながっていることをデフォルトにする。学習課程を作成するときに、地域との協働があることを前提としたカリキュラムを作る。

(3) 「秋篠川のめぐみを未来へ」奈良市立平城小学校 新宮 済先生

③子どもから大人社会を摘発する

学級や学年全体で取り組むことで、児童のデフォルト、地域のデフォルトが変更可能となる。

海ゴミの80パーセントは川ゴミ由来であり、川ゴミは町ゴミが風などで川に至ったもの。海ゴミや川ゴミと自分の生活との関連に気づいた児童が、ゴミを拾って学校に持ってくるようになった。町や通りにゴミが落ちているのが当たり前（デフォルト）であったのが、ゴミがないのが当たり前とデフォルトを変更する。ゴミを分別したり内容を調



べたりすることで、ゴミを捨てている（落ちても知らないふりをしている）のが大人であると感じくだろう。発表の場があるのであれば、スウェーデンのグレタさんのように、子どもから大人に摘発してはどうか。

(4) まとめ

④ソマティック・マーカーと見方・考え方の関連

社会環境や自然環境を①多様性、②相互性、③有限性の視点で検討することで、「人権・文化を尊重する」「生態系・自然環境の保全を重視する」という価値観を育てることができると共に、その繰り返しのよって、①・②・③の視点もしっかりと身につき、ソマティック・マーカーに反映される。

人や集団の行動や意思決定を④公平性、⑤連携性、⑥責任性の視点で検討することで、「世代間の公正」「世代内の公正」「幸福感の重視」という価値観を育てることができると共に、その繰り返しのよって、④・⑤・⑥の視点もしっかりと身につき、ソマティック・マーカーに反映される。

では、最初に①～⑥の大切さを理解させるには、どうすればよいのか。言葉の上での理解だけでなく、実感をともなった理解が重要である。体験や活動を通じた学びとその場面での指導者からの声かけ（テキスト化）が効果的である。

